



国民の森林・国営林

森林ふれあい情報

平成21年2月

第10号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151

E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

平成20年度国有林野事業 業務研究発表会で発表

11月27日、林野庁主催の国有林野事業業務研究発表会において、「ボランティアによる木曽駒ヶ岳植生復元作業の取り組み」と題し、入り込み者の増加に伴い、その踏み荒らしが誘因と考えられる高山植生の荒廃を、ボランティアと協力・連携し、元の高山植生に復元する活動について、平成16年度の高山植生荒廃の現況調査から今年度実施したボランティアによる植生復元作業等までの取り組みをまとめ、当ふれあいセンターの寺澤自然再生指導官が発表しました。



発表する 寺澤自然再生指導官

考察としては、気象条件の厳しい高山帯での植生復元については、長い年月が必要となり、その間に繊維マットのメンテナンス作業や作業成果の検証及び復元技術の確立に向けてのモニタリング作業が重要となり、これらの活動を実施するため、ボランティアによる実行体制の整備が急務であるとともに、併せて、高山植生の荒廃要因と考えられる登山者等の入り込み者に対し、植生復元の作業状況の説明を行う等高山植生に対するモラルの普及啓発活動が必要であるとなりました。

日義中学校で出前授業を実施

平成20年度、木曽地区での「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」に参加した、木曽町立日義中学校1年生の担任の先生から、来年2年時

に計画している愛知用水の現状の学習、東海市新日本製鐵工場（多量の水を使用）の見学をするに当たり、「森林・林業の役割、大切さを事前に学習させたい。」との要請があり、今回、出前授業を実施することとしました。

管轄である木曽森林管理署も交え先生と内容について検討した結果座学、地元産業の見学及び体験林業を行うこととしました。



葉と丸太で木曽五木を見分ける

座学の時間では地元の森林、森の働き、木曽五木、産業としての林業及びみんなにできることは？等についての話、また、健全な森林と裸の山で雨が降った場合の違いの実験、段ボール箱で作製した空気大砲を使ってのヒノキの香り飛ばしの実演、めんばに詰めてあるチャーハン茶碗に分けると何杯分入っているかを生徒自身に確認させる等五感（目・耳・鼻・口・手）を通しての学習も行いました。

今後、児童達が何を学びたいかで班編制を行い、それぞれ目的にあった会社等へ訪問して学習する地元産業の見学、地元施設、フィールドを利用した体験林業（除伐）ネイチャーゲームも当ふれあいセンター等で支援することとしています。



熱心に講義を聴く生徒



めんばに入っているチャーハンの量を調べる

水生昆虫等の生息調査実施

「城山史跡の森」遊歩道の中でも人気の高い権現滝コース。この「権現滝」を流れる黒木ヶ沢の水生昆虫等の生息委託調査を行いました。

調査内容は水質検査、魚介類調査、底生動物調査、両生類調査等を3回行い、その結果、川幅の狭い急勾配の小溪流にもかかわらず、魚類ではヤマトイワナ、両生類ではハコネサンショウウオ、ヒダサンショウウオ等の生息が確認されました。

特に、この流域ではムカシトンボが広く生息しており、若齢幼虫から終齢幼虫まで様々な大きさの幼虫が多く採取されました。

なお、黒木ヶ沢の所在する長野県木曽郡木曽町福島は、日本で初めてムカシトンボの幼虫が発見された場所とされています。



ヤマトイワナ



ムカシトンボの幼虫



左：ヒダサンショウウオ
右：ハコネサンショウウオ

木曽福島小出前授業実施

1月27日、木曽福島小学校6年2組の児童20名が城山国有林「城山史跡の森」において、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリについて学びました。

なぜ保護しなければならないのか、花を付けて種から芽を出し、再び花を付けるまで6～7年かかるといったメカニズム等を学んだ後、落下したササユリの種が少しでも多く芽を出し、育ちやすい環境をつくるため、自生地に積もった落ち葉かきを行いました。

指導には、当センターをはじめ、この「城山史跡の森」をフィールドに活動している「城山史跡の森倶楽部」会員4名の協力を得ました。



終了後、作業をした後と作業をしていない箇所を見比べ、自分たちが行った作業に満足するとともに、「ササユリがたくさん咲くようになればいい。」「何年かしたら見に

来てみたい。」といった感想が聞かれました。

このクラスでは、昨年度から総合的学習の時間を利用して、丸太切り、木材チップによる歩道整備、測樹などの体験林業を実施してきましたが、今年度4回目、計9回目となる今回をもって終了（卒業）となります。来年度以降についても出前授業等が実施できるよう、引き続き学校等に働きかけています。



冬の権現滝

木曽義仲が以仁王の令旨を受け、平家追討の兵を挙げた際に、この滝で御嶽大権現の出現を願い、沐浴祈願したことからこの名が付けられたと言われています。

しばし下界の煩わしさを忘れさせてくれるスポットとなっています。

「城山史跡の森」の遊歩道は、この「権現滝コース」のほかに、20分程で回れるお手軽な「水辺コース」から、

120分程かかる体力が必要な「大樹の森コース」等全7つのコースが整備されており、時間・体力に合わせ手軽に散策できます。

